

1

特集

令和4年度 梶田隆章賞に 築取さんと范さん

 Vol. 35
 May
 2023

令和4年度 梶田隆章賞に、理学部数学科 築取智紀さんと、工学部電気電子物理工学科 范文博さんが選ばれ、3月24日(金)に挙行された卒業式にて授与式が行われました。本賞は、研究者への高い志を有する卒業生を表彰する埼玉大学の制度で、1981年に埼玉大学理学部を卒業し、2015年にノーベル物理学賞を受賞した梶田隆章先生の栄誉を称えて設けられたものです。築取さん、范さんともに卒業後は埼玉大学大学院理工学研究科に進学し、研究者への第一歩を踏み出します。



▶受賞したお二人へのインタビューがご覧いただけます。
 (オンラインマガジンSAIDAI CONCIERGE)

▶ 范文博さん(左)と築取智紀さん(右) ▶

清光麗さんに埼玉大と米国大の学位を授与 —教養学部ダブル・ディグリー・プログラムに初の修了生—

埼玉大学とアメリカ アーカンソー州立大学ジョーンズボロ校(ASUJ)との間で実施しているダブル・ディグリー・プログラム(DDP)。その初めての修了生となる教養学部 4年 清光麗さんへ両大学から学位が授与されました。DDPはASUJに2年間留学し、埼玉大とASUJそれぞれで所定の単位を修得することで、本学では学士(教養)、留学先ではBachelor of Science(学際)という2つの学位が取得できるプログラムです。

3月24日(金)、学位授与式にて埼玉大学の学位が授与された清光さん。式後、教養学部棟大会議室において挙行された、2022年度教養学部ダブル・ディグリー・プログラム修了式にて、アーカンソー州立大学Thilla Sivakumaran副学長よりASUJの学位記、そして野中進教養学部長よりダブル・ディグリー・プログラム修了証が授与されました。



▲学位授与式にて学部学生代表挨拶を述べる清光さん



▲清光麗さん(前列中央)とご家族(後列)
 (前列左から)教養学部 宮田伊知郎教授、野中進 教養学部長、ASUJ Thilla Sivakumaran副学長、高木英至 元教養学部長

2 教育 「埼玉県高等学校長協会との高大対話」を埼玉大学で開催しました

12月19日(月)、「埼玉県高等学校長協会との高大対話」を開催しました。

この取組は、高大接続の重要性が高まっていることを踏まえ、埼玉県の高校と県内唯一の国立大学である本学との直接的な意見交換の場として、2017年度から開催しているもので、今回で4回目の開催となりました。

意見交換会に先立ち、坂井学長より第4期中期目標期間における本学の戦略的・重点的な取組、柳澤理事より特別入試やデータサイエンス教育の状況、田代副学長より今年度設置したダイバーシティ推進センターの活動状況、黒川理事より工学部の6年一貫型教育プログラムについての説明がなされました。

意見交換会では、2024年度大学入学共通テストから高等学校における新学習指導要領に対応した出題教科として新たに加わる「情報」に関する本学の検討状況や各高等学校における対応状況、本学における人材育成や教員養成への期待など活発な意見交換が行われ、高校と大学の互いの考え方・状況について理解を深める上で大変有意義な機会となりました。



▲意見を述べる高岡 埼玉県高等学校長協会会長 (埼玉県立浦和第一女子高等学校長)



▲会議の様子

3 学生 令和4年度3月期学生表彰を挙行 —優れた学術研究・課外活動の成果を称えて—

3月17日(金)、令和4年度3月期学生表彰式を開催しました。

この表彰は、学術研究等の成果が優れている学生、課外活動の成果が特に顕著である学生、社会活動において優れた評価を受けた学生、その他表彰に値すると認められた学生を表彰する制度です。今回は個人表彰20名および団体表彰1団体に対して坂井学長から表彰状が授与され、学生後援会より記念品が贈呈されました。



▶ 学長を囲んで記念撮影 ▶

4 学生 学長室を絵画で彩ってくれた学生へ、学長から感謝状を贈呈

この度、学長執務室、学長応接室、待合スペースに、本学学生の絵画作品が飾られました。3月14日(火)に、制作者である教育学部の我妻琴未さん、田村愛依さん、笹川陸斗さん、舟橋菜摘さんの4名と小澤基弘教授が学長応接室に招かれ、学長から学生へ感謝状が贈呈されました。

昨年度に引き続き、作品は、坂井学長が本学の芸術講座美術分野の卒業制作展を鑑賞し自ら選定を行ったものです。

感謝状贈呈後の懇談の場では、坂井学長から感謝の言葉とともに、「卒業して教員になる方々にはこれからも絵を描き続けていただき、機会があればまた大学で飾らせてほしい。2年生と3年生のお二人にはこれからも素敵な作品を作り続けてほしい」と激励がありました。

贈呈式後の歓談では、それぞれが制作した絵画の前で、学長からは選定理由が、学生からは絵画への想いなどが語られました。

▶ 記念撮影 (左から) 我妻さん、笹川さん、坂井学長、舟橋さん、田村さん、小澤教授 ▶



5 国際 2022年度後期STEPS留学報告会及びFarewell Partyを開催しました

2月10日(金)、本学が海外の協定校から受け入れている交換留学生(STEPS生)の留学報告会を開催しました。

STEPS生は4月または9月に来日し、主に日本語や自身の専門科目を履修します。また勉学以外では、バスツアーや餅つき大会等、学生が企画した国際交流イベントを通して日本人学生との交流を深めてきました。今回は、その集大成として留学報告会を開催し、留学体験を共有しました。

発表者は埼玉大学でしか体験できなかった経験や、日本での留学を今後どう活かしていくのかについて積極的な意見を述べ、参加者に大きな刺激を与えていました。

留学報告会の終了後には、日本人学生を交えてFarewell Partyを実施し、それぞれ別れを惜しみながらも友人達との会食を楽しみました。

▶ Farewell Partyにて ▶



6 タイバースティ 「サイエンス体験ウインタースクール」を開催しました

2月17日(土)と18日(日)の2日間、女子高生とその保護者向けに「サイエンス体験ウインタースクール」を開催しました。このプログラムは、国立研究開発法人科学技術振興機構「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」(WISE-P)の一環として実施され、今回は令和3年度に引き続き2回目(昨年度は「サイエンス体験オータムスクール」)となります。

今回のウインタースクールでは、サイエンス体験、保護者向け懇談会及び女子学生との交流会を開催しました。サイエンス体験は、8つの研究テーマの中から希望の研究テーマを選んでもらい、3人ずつに分かれて行いました。2日間にかけて講師とティーチングアシスタントの学生と交流しながら1つの研究テーマを深めていく貴重な体験の場となりました。

今回のサイエンス体験は、理学系および工学系の8つの研究室で実験を行いました。初日は参加生徒同士も初対面であったため、打ち解けるのに少し時間がかかり、受け身の様子も見受けられましたが、2日目には生徒同士で自発的に発言をするような積極的な姿勢が感じられ、この経験を糧とした参加者の今後のチャレンジが期待されます。



▲サイエンス体験の一コマ

7 地域 地域の方々とクリスマスを祝おう! — 埼玉大学生広報サポーターの地域連携活動 —

12月24日(土)、さいたま新都心けやきひろばにて、埼玉大学生広報サポーターによる「想いつながるクリスマスツリー～みんなの願いでツリーが育つ～」を開催しました。当日はクリスマスを楽しむ家族連れなど約200名が参加。クリスマスイブのひとときを地域の方々と楽しみました。

本イベントの開催に協力いただいた株式会社さいたまリーナは、3月17日(金)に本学と包括的連携に関する協定を結び、今後、本学とともに埼玉大学及びさいたま新都心地域の持続的発展と人材育成に取り組んでいくこととなっています。



▲折り紙やモールで、オリジナルのクリスマスオーナメントを作成。埼玉大学生広報サポーター手作りのツリーに飾りつけました。



▲イベントを開催した埼玉大学生広報サポーターのメンバー

8 研究 化学コミュニケーション賞2022を受賞(大学院理工学研究科 古川俊輔 助教)

大学院理工学研究科 古川俊輔助教が代表を務める「ARchemisT」が、化学コミュニケーション賞2022(団体)を受賞しました。この賞は日本化学連合が2011年に創設したもので、化学や化学技術について社会の理解を深めることに貢献した個人または団体を表彰しています。

受賞業績は、「カプセルトイ「分子博物館」の企画制作」。化学が理解されにくい要因の一つに基本構成単位である「分子」が五感で感じられにくいという点が挙げられますが、分子を1億倍スケールのカプセルトイにすることで可視化し、手触りのある形に具現化しました。また、カプセルトイは日本では非常に身近な玩具であり、「何が出るかな?」という特有のワクワク感は、化学の学びと結びつけることができます。第一弾は「ノーベル賞編」としてフラーレンやDNAをはじめとする全9種類のラインナップとなっています。



▲分子を1億倍スケールで再現!

9

教育

令和4年度 卒業式を挙行 卒業生1,581名、修了生533名が埼玉大を巣立つ

3月24日(金)、令和4年度埼玉大学卒業式・大学院修了式を挙行了しました。

今年度は大宮ソニックシティ大ホールにて、午前の部、午後の部の2回に分けて卒業式を開催。午前の部は教養学部、経済学部、教育学部卒業生と大学院人文社会科学研究科、大学院教育学研究科修了生を対象に、午後の部は理学部、工学部卒業生と大学院理工学研究科修了生を対象に開催されました。

坂井貴文学長は式辞の中で、予測困難な時代を生き抜き、それぞれのWell-beingを手にするために考えて欲しいこととして「多様性の尊重」について触れ、「他者のナラティブを理解し、尊重することで多様性のある社会を目指す姿勢を持ち続けて欲しいと思います」と卒業生・修了生にエールを送りました。



▲式辞を述べる坂井学長



▲満開の桜の下で記念撮影

埼玉大学基金室より 埼玉大学基金のご案内

埼玉大学基金は平成25年11月の設立以来、皆さまからのご理解とあたたかいご支援をいただいております。現在、下図のとおり大学の機能強化、学生支援の充実を目的とすご寄附を幅広く受け入れております。

ご寄附の方法として、金融機関からの振込・払込のほか、指定の月に決済が行われる継続寄附も可能なクレジットカード決済をご用意しております。

また、不要となった本やDVD等をお送りいただくことで、その査定額をご寄附いただけるリサイクル募金「きしゃぼん」を導入しております。

今後とも埼玉大学基金へのご理解とご支援をいただけますよう、心よりお願い申し上げます。

埼玉大みらい基金

【募集期間】2019年11月～2024年3月

■埼玉大学の機能強化を支援

教育・研究への支援

- ・教育プログラムの整備充実等
- ・国際的研究力の向上等

キャンパス環境整備への支援

- ・安全・安心・快適なキャンパス整備等

国際交流事業への支援

- ・海外留学の促進等
- ・外国人留学生受入促進等

社会連携事業への支援

- ・地域・社会との連携充実等
- ・企業との連携強化等

その他基金の目的達成に必要な事業

■学生への奨励事業の実施

- 特に優秀な学生への給付型奨励金制度の創設



詳しくはホームページをご覧ください

<http://www.saitama-u.ac.jp/funds/>

埼玉大学基金

検索

冠奨学金基金

寄附者の方の想いに沿った奨学金制度を創設

一定額以上(30万円以上)を寄附した寄附者(法人・個人)が、奨学金名称、奨学金の額及び対象学部等を設定いただけます。

特定基金

埼玉大学修学サポート基金

経済的理由により修学に困難がある学生等の支援

- ・授業料・入学科減免事業
- ・奨学金事業
- ・海外留学支援事業
- ・TA・RA事業

◆埼玉大学基金へのご寄附の累計額

令和5年 3月末の状況 **685,431,084円**

うちリサイクル募金「きしゃぼん」によるご寄附 **1,441,896円**

お問い合わせ先 埼玉大学基金室(総務部広報渉外課内) ☎048(858)9330 ✉s-kikin@gr.saitama-u.ac.jp

